

ポピュラーカルチャーに美学的視点を！

横浜国立大学提供
作成日 2016年2月22日
更新日



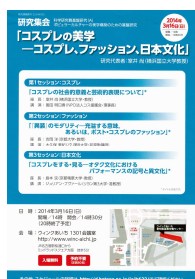
研究者氏名 むろい ひさし 室井 尚	所属機関 横浜国立大学 教育人間科学部	関連キーワード(複数可) ポップカルチャー、文化研究、比較文化、美学、芸術学、哲学
主な研究テーマ ・哲学・美学・芸術・記号論など		主な採択課題 ・基盤研究(A)平成25～27年度(配分総額:32,890千円) 課題名「ポピュラーカルチャーの美学構築に関する基盤研究」

① 科研費による研究成果

近年、美学・芸術学の領域においてマンガ、アニメ、ゲームなど、いわゆるポピュラーカルチャーに関心が集まっているが、それらの文化領域に対して哲学的・美学的な立場を構築しようとする試みがほとんどなかった。今まで「作家研究」「作品研究」という枠組でポップカルチャーが研究されることはあったが、本研究では作品に対して受容者(=オーディエンス)がどのような関わり方をしていき、受容者が作品制作にどのように影響を与えているかという視点を取り入れた。

本研究は、研究分担者、協力者らと年に3回の研究会を経て、各業界の運営者・媒介者を交え公開イベントとして大規模な研究集会「コスプレの美学」「アニメの美学」「アイドルの美学」を開催した。(下記のページで26年度までの内容を閲覧できる <http://y-labo.wix.com/home>)

25年度



26年度



27年度



② 研究成果のその後の展開など

本研究の成果を受け、今後は、従来の芸術・文学研究の枠組みを越える、ポピュラーカルチャーにおける特殊な「創作=受容共同体」という新しい文化生産の仕組みに焦点を合わせ、さらにポピュラーカルチャー研究を深めていく。

また、大学院生、若手研究者や業界関係者、そして他大学からの学生や留学生など、専門家以外にも非常に多くの若者から関心を集めている。広範な聴衆を交えた研究集会を組織していくことでこの領域に取り組む若手研究者たちを育成していくことができると考えている。

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

世界各国から注目されている日本のポピュラーカルチャー産業を批評的に分析、考察することで、日本におけるポピュラーカルチャー文化の本質・立ち位置を理論的に把握することができるかと確信している。